諫早市文化財調査報告書　第10集

有　喜　貝　塚

―動物遺存体―

1988. 6

諫　早　市　教　育　委　員　会

発刊のことば

長崎県考古学発祥の地である有喜貝塚は，大正14年に京都帝国大学の浜田耕作博士により調査がなされ，歴史的・学術的に重要な位置を占めている遺跡です。

この貝塚は橘湾に臨む台地上にあり，天草灘を介して遠く鹿児島などの諸邑と交流した形跡を示す土器などが発見されています。海を媒介とした交流の範囲は私たちの想像を超えるほど広く，壱岐・対馬から朝鮮半島にまでその痕跡を追うことができます。

これらの出土品を見るとき，海原に舟を漕ぎ出し，山野を跳梁した人びとの姿が彷彿とします。

考古資料は，物をして往時の生活の在り方，他地域との交流の状況，文化の発展過程を知るための貴重な遺物であり，これらを包蔵する遺跡は更に重要なものです。これら重要な遺跡を後世に残し伝えることは私たちに課せられた大事な責務と考えております。

本報告は，昭和58年度に「六本松地区急傾斜地崩壊対策工事」に伴い，緊急調査を実施し，出土した遺物のうち未報告分であった動物遺存体に関する報告であり，本報告で有喜貝塚に関する報告が完結を見ました。

報告書作成にあたりましては，同定・分析から原稿作成までの任に当っていただきました名古屋大学　渡辺誠先生をはじめ，研究室の皆さまに衷心より厚くお礼申し上げます。

本報告書が，文化財保護の一助となり，諫早の歴史を解明する先鞭となれば，望外の喜びとするところであります。

昭和63年６月１日

諫早市教育長　　西 原 英 麿

例　　言

1．本書は，昭和58年度に調査を実施した有喜貝塚出土遺物のうち，動物遺存体に関する同定・分析の結果報告書である。

2．同定・分析作業に関しては，名古屋大学文学部助教授　渡辺誠先生にその任に当っていただき，同定・分析結果についての玉稿を賜わった。

3．本書掲載の表・挿図・図版のうち，下記に示すものを除いて，すべて渡辺誠先生の作成によるものである。

　　第２図（諫文報第５集より転載）

　　図版６（　　〃　　）

4．本書の編集は秀島が行った。

本　文　目　次

発刊のことば

例　言

諫早市有喜貝塚の動物遺体 …… 1

1．はじめに …… 1

2．魚　類 …… 1

3．哺乳類 …… 2

4．骨角器 …… 3

5．おわりに …… 3

表　目　次

第1表　資料一覧表 …… 6

第2表　動物遺体種名一覧表 …… 7

第3表　魚骨数量表1 …… 8

第4表　魚骨数量表2 …… 9

第5表　脊椎骨による魚類構成比 …… 10

第6表　魚鱗数量表 …… 11

第7表　ウニ類数量表 …… 11

第8表　クジラ類数量表 …… 12

第9表　イルカ類数量表 …… 12

第10表　イノシシ部位別数量表 …… 13

第11表　イノシシ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表 …… 14

第12表　シカ部位別数量表 …… 15

第13表　シカ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表 …… 16

第14表　小動物部位別数量表 …… 16

第15表　小動物下顎骨一覧表 …… 17

第16表　陸棲哺乳類遺体の検出頻度 …… 17

第17表　骨角器一覧表 …… 18

挿　図　目　次

第１図　骨角器実測図 …… 4
第２図　骨角牙器・貝輪（諫文報第５集より転載） …… 5

図　版　目　次

図版１　骨角器および動物遺体１
図版２　動物遺体２
図版３　動物遺体３
図版４　動物遺体４
図版５　動物遺体５
図版６　骨角牙器・貝輪（諫文報第５集より転載）

諫早市有喜貝塚の動物遺体

1．はじめに

天草灘に連なる橘湾に臨む本貝塚は，古く大正14年に浜田耕作氏等によって発掘され，全国的にも著名な縄文時代の貝塚である(浜田他1925a･b)。そして昭和57年に至り急傾斜地崩壊対策事業に関連して，諫早市教育委員会によって第２回目の発掘調査が実施された。その報告書もすでに刊行されている(秀島他1984)。貝塚を特徴づける動物遺体については，貝類についてのみそのなかで山本愛三氏によって詳細に報告されている。今回筆者に調査の機会を与えられたのは，その貝類を除いた動物遺体についてである。

それらの資料は，貝層などからの発掘資料(Ａ)と，ブロック・サンプリング資料(Ｂ)とに大別される。そしてそれらの地区・層位と，含まれる遺物名との関係は，第１表に示すとおりである。

またそれらの所属時期は，報告書によれば縄文時代後期前葉と同中葉，および両者と中期をも含む攪乱層とに区分される。それらと資料番号との関係は，次のとおりである。

後期前葉　11～14，18，19，26～30，32.

後期中葉　16，17，31.

攪 乱 層　１～10，15，20～25，33.

それらより検出された動物遺体の種名は，第２表に示すとおりである。主体をなすのは哺乳類と魚類である。次にその検討結果を記す。

2．魚　類

魚類は18種が検出されている。それに不明種を加えて検出部位の数量を，貝層などからの発掘資料と，ブロック・サンプリング資料とに分けて記すと，第３・４表のとおりである。

そのなかで多いのは，サメ目・マイワシ・カタクチイワシ・マアジ・ベラ科・マサバなどである。

サメ目には椎径２～４cmの１群（図版２－１・２）と，数mmの小型の１群（図版１－11）とがみられる。前者は貝層などからの発掘資料，後者はブロック・サンプリング資料にのみみられる。前者には不明種の１群（同１）が多く，１点のみネズミザメ科（同２）がある。すでに報告されているサメの歯の垂飾は，このネズミザメ科の１種であるアオザメの右上顎の歯に穿孔されたものである。小型の種類は沿岸性のものとみられるが，大型のネズミザメ科などは外洋からの侵入か，外洋で捕獲されたものであろう。

ニシン科のマイワシやカタクチイワシ(図版１－12～20)は，本貝塚においてもっとも比率の

高い種類である。ブロック・サンプリング資料では54～93%を示し，特に脊椎骨の絶対数の多い資料では70%を下らないほどである(第５表)。これらは近海の上層を遊泳する種類である。

マアジも同様に近海を遊泳する種類であるが，根つきの習性もある。なおマアジに特徴的な楯鱗も検出されている（第６表，図版１―22・23)。

ベラ科には多くの種が含まれるが，主に沿岸海域に棲む種類である（同26，図版２－10)。

マサバも沿岸海域に棲む種類であり，根つきの習性も強い（図版１－27～29)。

以上の諸種はサメ目の一部を除き，沿岸海域において捕獲できる小型魚類という共通した特徴がある。

貝類から環境復元を行った山本愛三氏は，当時の河川堆積物は現在より多くはなく，本貝塚西方の平野には大きく広がった内湾が展開し，その外側の外洋はほとんど岩礁性海岸であったと考察している(山本1984)。貝類は，内湾性二枚貝のマガキ・オキシジミ，岩礁性巻貝のイシダタミ・オオコシダカガンガラ・スガイなどが多い。

この山本氏による水域環境とマイワシなどの魚類相とはよく対応しており，これらの魚類を内湾において，網漁などで捕獲したことが推定される。そして外洋より大型サメ類・ソウダガツオ類(図版２－11)・カジキ類(同12)・マグロ類(同13)などが侵入したか，外洋での捕獲が行われたことも推定される。１点のみ出土している単式釣針は，後者との関連において注目される資料である。

また山本氏は，縄文時代後期前葉と同中葉との間に大きな環境の変化はなかったとも記しているが，魚類においても同様に変化は認められない(第５表)。

なおアカウニとバフンウニの殻片・棘・中生骨・上生骨・顎骨などが検出されている（第７表，図版１－３～10)。岩礁性海岸で貝類とともに，ウニ類も採集されていたことを示している。

３．哺乳類

哺乳類には，陸棲哺乳類５種と海棲哺乳類２種とが含まれている(第２表)。

海棲哺乳類の２種はクジラ類とイルカ類であり，その検出数量は第８・９表に示すように少量であるが，上記のような外洋水の影響の強い本貝塚の環境をよく示しているといえよう（図版３－１～３)。

陸棲哺乳類の５種は，大型動物のイノシシ(図版４)とシカ(同５)，小型動物のタヌキ・アナグマとイヌ（図版３－４～10）である。いずれも縄文時代の重要な食料源であったばかりでなく，イヌは狩猟犬としても重要であった。

またそれらの骨角は骨角器の素材としても重要であったし，本貝塚においてもそれらの好資料が出土していることは，すでに報告されているとおりである(秀島他1984)。また今回の検討でも２点の追加がみられた。それらについては次項において記す。

５種の検出部位と数量は，第10～16表に示すとおりである。それらの構成比を出現頻度（第16表）でみてみると，シカがもっとも多く52％を占めている。これに次ぐのはイノシシで39％を占め，これらの大型動物のみで全体の９割を占めているのである。

以上の他に，カエル類の脊椎骨１点，ヘビ類の脊椎骨２点，および鳥骨少量が検出されている。

これらの動物質食料と，ドングリ類などの植物質食料とによって，本貝塚の縄文人の食生活が維持されていたものと考えられる。

４．骨角器

骨角器は本報告書において25点報告されており，その素材についても報告されている。それらには加工痕または切痕のみられるのみのものも含まれている。しかしその一部には誤認もみられるので，再検討を行った。その結果は新発見資料をも含めて，第17表に示すとおりである。新資料は，骨角器２点と，加工痕または切痕のみられるもの４点である。後者については表中で記すに留める。

骨角器の２点はいずれもへら状製品である。

第１資料は，資料番号11（Ｃ区Ⅲ層，後期前葉）中に混じっていたものである。シカの左尺骨の体部を切断し，上下両面より磨いて刃部を作り出している。また近位端寄りも切断しており，手のひらに入る大きさにしていると推定される。全長10.6cm，幅2.3cm，厚さ2.3cmで，刃幅は1.4cm，厚さ0.4cmである(第１図１，図版１－１)。

第２資料は，資料番号20（Ｅ区表土，攪乱層）中に混じっていたものである。シカの中足骨あるいは脛骨の体部を裂いて切断し，上下両面より磨いて刃部を作り出している。刃部の大部分も欠損している。残存長8.1cm，幅2.0cm，厚さ0.6cmである(同２，同２)。

５．おわりに

長崎県を中心とする西北九州の縄文時代の漁業は，朝鮮半島南海岸と緊密な関係にあったことが近年しだいに明らかになりつつある(渡辺1985)。しかしそれらは主として漁具の研究にもとづくものであり，捕獲対象動物の研究はまだ不十分な段階にある。両者の総合化が目下の重要な検討課題なのであり，これらの資料がその一助となれば幸いである。

おわりに当り，調査の機会を与えて下さった諫早市教育委員会の秀島貞康氏，種々ご教示を賜った国立科学博物館の上野輝弥先生，霊長類研究所の毛利俊雄先生，および資料の整理・検討にご協力くださった名古屋大学文学部学生の伊藤多佳彦・久保和士・田中禎子・鈴木元氏に，衷心より謝意を表する次第である。

〈引用文献目録〉

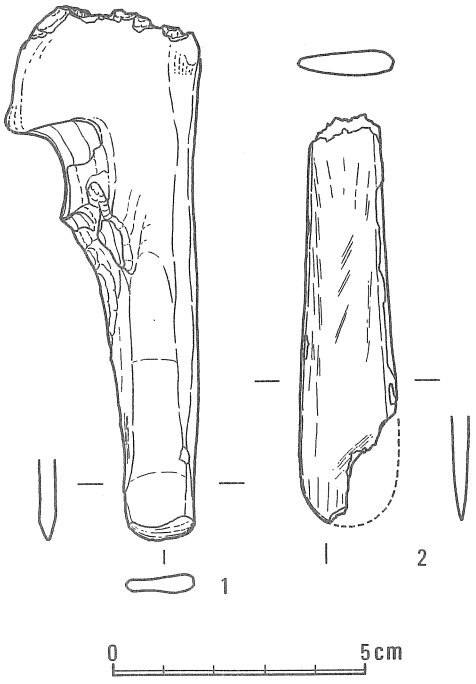
浜田耕作他，1925a：肥前国有喜貝塚発掘報告・上。人類学雑誌，41－1．1～14頁。東京。

――他，1925b：肥前国有喜貝塚発掘報告・下。人類学雑誌，41－2．79～93頁。東京。

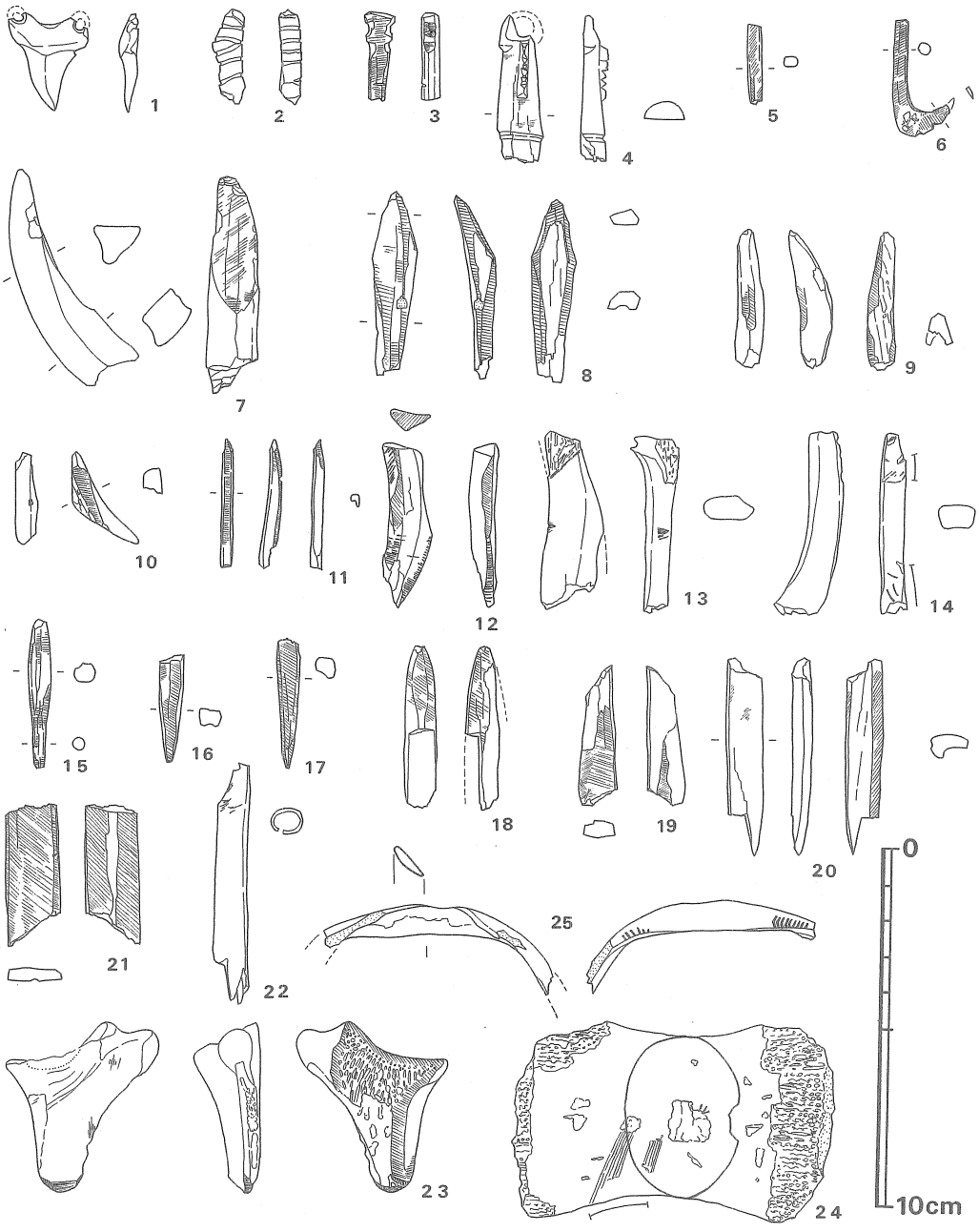
秀島貞康他，1984：有喜貝塚。諫早市文化財調査報告．8。諫早。

山本愛三，1984：長崎県・有喜貝塚の貝類より見た考察。諫早市文化財調査報告，8．69～77頁。諫早。

渡辺　誠，1985：西北九州の縄文時代漁撈文化。列島の文化史，2．45～96頁。東京。



第1図　骨角器実測図



第2図　骨角牙器・貝輪(諫文報第5集より転載)

第１表　資料一覧表

類別	資料番号	地区	層位	遺物名						
				ウニ類	魚骨	魚鱗	カエル類	ヘビ類	鳥骨	獣骨
A・貝層などからの発掘資料	1	A 区	Ⅰ層		○				○	○
	2	A 区	Ⅲ層							○
	3	B 区	表土		○				○	○
	4	B 区	Ⅱ層		○					○
	5	B 区	Ⅲ層		○					○
	6	B 区	Ⅳ層		○					○
	7	B 区	Ⅴ層		○				○	○
	8	B 区	Ⅵ層		○					○
	9	C 区	表土		○					○
	10	C 区	Ⅱ層							○
	11	C 区	Ⅲ層		○				○	○
	12	C 区	Ⅳ層		○					○
	13	C 区	Ⅴ層		○					○
	14	C 区	Ⅵ層		○					○
	15	D 区	表土							○
	16	D 区	Ⅰ層		○					○
	17	D 区	Ⅱ層		○					○
	18	D 区	Ⅲ層		○					○
	19	D 区	Pit 内		○					○
	20	E 区	表土		○				○	○
	21	E 区	Ⅰ層		○					○
	22	E 区	Ⅱ層		○					○
	23	E 区	Ⅲ層		○					○
B・ブロック・サンプリング資料	24	A 区	Ⅲ層	○	○	○				○
	25	B 区	Ⅴ層	○	○	○	○			○
	26	C 区	Ⅲ層 1	○	○	○				○
	27	C 区	Ⅲ層 2	○	○	○				
	28	C 区	Ⅳ層 1	○	○	○				
	29	C 区	Ⅳ層 2	○	○					
	30	C 区	Ⅴ層	○	○	○				○
	31	D 区	Ⅱ層 1	○	○					○
	32	D 区	Ⅲ層 2	○	○			○		○
	33	E 区	Ⅲ層	○	○	○				○

第2表　動物遺体種名一覧表

棘皮動物門　ECHINODERMATA	
海膽類　ECHINODEA	
1．ラッパウニ科アカウニ	*Pseudocentrotus depressus* A.Agassiz
2．ナガウニ科ムラサキウニ	*Anthocidaris crassispina* A.Agassiz
脊椎動物門　VERTEBRATA	
魚　類　PISCES	
軟骨魚綱　CHONDRICHTHYES	
1．ネズミザメ科	*Lamna ditropis* Hubbs et Follett
2．サメ目	Pleurotremata sp.
硬骨魚綱　OSTEICHTHYES	
1．ニシン科マイワシ	*Sardinops melanosticta* Temminck et Schlegel
2．ニシン科カタクチイワシ	*Engraulis japonica* Houttuyn
3．ボラ科ボラ	*Mugil cephalus cephalus* Linnaeus
4．スズキ科スズキ	*Lateolabrax japonicus* Cuvier
5．アジ科マアジ	*Trachurus japonicus* Temminck et Schlegel
6．イサキ科イサキ	*Parapristipoma trilineatum* Thunberg
7．タイ科マダイ	*Pagrus major* Temminck et Schlegel
8．タイ科クロダイ	*Acanthopagrus schlegeli* Bleeker
9．ベラ科	Labridae sp.
10．メカジキ亜目の1種	Xiphioidei sp.
11．サバ科マサバ	*Scomber japonicus* Houttuyn
12．ソウダガツオ属の1種	Auxis sp.
13．マグロ属の1種	Thunnus sp.
14．フサカサゴ科メバル	*Sebastes inermis* Cuvier
15．カワハギ科カワハギ	*Stephanolepis cirrhifer* Temminck et Schlegel
16．フグ科の1種	Tetraodontidae sp.
両生類　AMPHIBIA	
爬虫類　LEPTILIA	
鳥　類　AVES	
哺乳類　MAMMALIA	
鯨　目　CETACEA	
1．クジラ類	Cetacea sp.
2．イルカ類	Delphinoidea sp.
食肉目　CARNIVORA	
1．イヌ科ニホンイヌ	*Canis familiaris var. japonicus* Temminck
2．イヌ科タヌキ	*Nyctereutes procyonoidea* Gray
3．イタチ科アナグマ	*Meles meles* Linnaeus
偶蹄目　ARTIODACTYLA	
1．イノシシ科イノシシ	*Sus scrofa leucomystax* Temminck
2．シカ科ニホンジカ	*Cerves nippon nippon* Temminck

第３表　魚骨数量表１（貝層などからの発掘資料，５・６・14・19は不明細片のみ）

種名	部位		時期	後期前葉				後期中葉		撹乱層										総計
			資料番号	11	12	13	18	16	17	1	3	4	7	8	9	20	21	22	23	
サメ目	脊椎骨					1	1	5	11		3		5	1		3	1	1	1	33
スズキ	主鰓蓋骨	ℓ									1				1					2
クロダイ	前上顎骨	ℓ									1		1		1					3
		r											1							1
	歯骨	ℓ		1																1
		r											1							1
マダイ	前上顎骨	ℓ								1			4							5
		r									1							1		2
	歯骨	ℓ									1		1							2
		r		2							1					1				4
タイ科	主上顎骨	ℓ								1	1		1							3
		r														1				1
	関節骨	ℓ		1																1
		r		1																1
	口蓋骨	r		1																1
	主鰓蓋骨	ℓ											1							1
	上後頭骨										2	1	1			2				6
	背鰓棘			2						1			1			1				5
	脊椎骨												1							1
ベラ科	前上顎骨	r									1									1
メカジキ亜目	脊椎骨					1			1											2
マグロ属	脊椎骨												1							1
不明	脊椎骨								1											1

第４表　魚骨数量表２（ブロック・サンプリング資料）

種名	部位		時期	後期前葉						後期中葉	攪乱層			総計
			資料番号	26	27	28	29	30	32	31	24	25	33	
サメ目	歯										1		1	2
	脊椎骨			3				2			3		1	9
マイワシ	主上顎骨	ℓ		2					2				1	5
		r		4					1			2	1	8
	歯骨	r		1										1
	関節骨	ℓ		1								1		2
		r		3		1			1					5
	主鰓蓋骨	r		1										1
	第１脊椎骨			30	1	1		1	2	1	9	1	6	52
	第２脊椎骨			26	1	5		3	6	1	3	2	15	62
カタクチイワシ	脊椎骨				1						2		9	12
ニシン科	脊椎骨			737	66	128	6	293	234	69	343	193	544	2613
	尾部棒状骨			10				4	3	1	3	2	5	28
ボラ	主鰓蓋骨	ℓ											1	1
スズキ	前上顎骨	ℓ										1		1
マアジ	歯骨	ℓ		1										1
	脊椎骨			26	2	1	1				7	1	9	47
イサキ	脊椎骨							3						3
クロダイ	前上顎骨	r									1			1
タイ科	主上顎骨	r									1			1
	脊椎骨										1			1
ベラ科	前上顎骨	ℓ				3		1						4
		r		1		3					1	1		6
	主上顎骨	r									1	2		3
	歯骨	ℓ										1	1	2
		r											1	1
	関節骨	ℓ				1	1				1		1	4
		r			1						1			2
	上咽頭骨	ℓ									1			1
		r										1		1
	下咽頭骨			1		1		2	2	2	2		1	11
	主鰓蓋骨	r											1	1
	脊椎骨			5	27	33	3	6	18	13	29	30	34	198
	尾部棒状骨					1								1
マサバ	前上顎骨	ℓ									1	1		2
	歯骨	r				1							1	2
	脊椎骨			10		10			5	2	24	6	19	76
ソウダガツオ属	脊椎骨										1			1
メバル	歯骨	r				1								1
カワハギ	背鰭第１棘				1			1						2
フグ科	下顎歯板	ℓ									1			1
不明	前上顎骨	ℓ										1		1
	主上顎骨	r										1		1
	関節骨	ℓ									1	1		2
		r				1								1
	脊椎骨			17	9	7	1	12	16	7	35	21	33	158
	尾部棒状骨					1		1	2		1	2	1	8
脊椎骨総計				854	107	185	11	320	281	93	457	254	670	3232

第5表　脊椎骨による魚類構成比

時期	後期前葉												後期中葉		撹乱層						総計	
資料番号	26		27		28		29		30		32		31		24		25		33			
構成比 / 種名	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%	個数	%
サメ目	3	0.35	3	0	0	0	0	0	2	0.63	0	0	0	0	3	0.66	0	0	1	0.15	9	0.28
マイワシ カタクチイワシ ニシン科	56 0 737 793	92.86	2 1 66 69	64.49	6 0 128 134	72.43	0 0 6 6	54.55	4 0 293 297	92.81	8 0 234 242	86.12	2 0 69 71	76.34	12 2 343 357	78.12	3 0 193 196	77.17	21 9 544 574	85.67	114 12 2613 2739	84.75
マアジ	26	3.04	2	1.87	1	0.54	1	9.09	0	0	0	0	0	0	7	1.53	1	0.39	9	1.34	47	1.45
イサキ	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.94	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.09
タイ科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.22	0	0	0	0	1	0.03
ベラ科	5	0.59	27	25.23	33	17.84	3	27.27	6	1.88	18	6.41	13	13.98	29	6.35	30	11.81	34	5.07	198	6.13
マサバ	10	1.17	0	0	10	5.41	0	0	0	0	5	1.78	2	2.15	24	5.25	6	2.36	19	2.84	76	2.35
ソウダガツオ属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.22	0	0	0	0	1	0.03
不明	17	1.99	9	8.41	7	3.78	1	9.09	12	3.75	16	5.69	7	7.53	35	7.66	21	8.27	33	4.93	158	4.89
総計	854	100.00	107	100.00	185	100.00	11	100.00	320	100.01	281	100.00	93	100.00	457	100.01	254	100.00	670	100.00	3232	100.00

第6表　魚鱗数量表

時期 / 資料番号 / 種名	後期前葉				攪乱層			総計
	26	27	28	30	24	25	33	
アジ科楯鱗	7	2	1	3	2	4	1	20
不明	1	1						2

第7表　ウニ類数量表

時期 / 資料番号 / 種名	部位			後期前葉						後期中葉	攪乱層			総計
				26	27	28	29	30	32	31	24	25	33	
アカウニ	殻板											1		1
	棘			8	3	6	4	3	1	2	16	7	9	59
バフンウニ	殻板						4							4
	棘					1								1
不明	殻板					4	7	2	2		6	1	2	24
	棘			2		2			1			1	2	8
	口器	中生骨				2	2		1		2			7
		上生骨	ℓ				2							2
		顎骨	ℓ		3	33	65				4	1	1	107
			r	1	4	47	48		2		3		2	107
			不明		1		5							6
		歯					2							2

第8表　クジラ類数量表

時期 / 資料番号 / 部位	後期前葉				後期中葉	攪乱層					計
	11	12	13	18	16	2	3	5	7	20	
脊椎骨破片	1	1		1	1	1	2	1	5	2	15
聴胞破片	1										1
不明破片			2						1	3	6

第9表　イルカ類数量表

時期 / 資料番号 / 部位		後期前葉			後期中葉		攪乱層	総計
		12	13	30	16	17	20	
肩甲骨	r				1			1
脊椎骨		1	2	1	1	1	1	7

第10表　イノシシ部位別数量表

部位＼時期		後期前葉					後期中葉		撹乱層										総計
資料番号		10	11	12	13	18	16	17	1	3	5	7	8	9	15	20	21	33	
頭頂骨＋後頭骨																	1		1
上顎骨	ℓ							1											1
	r												1						1
上顎遊離歯								1							1	1			3
下顎骨	ℓ		1					2											3
	r		4	1				3		1				1					10
下顎遊離歯			3	2		1		2	2			3				1		1	15
上腕骨	ℓ						1									1			2
	r			1								1							2
橈骨	ℓ		1					1											2
	r									1					1				2
尺骨	ℓ				1											1			2
	r		1			1													2
第3中手骨	ℓ									1									1
	r											1							1
第4中手骨	ℓ	1																	1
第5中手骨	r									1		1							2
寛骨	ℓ		1					1								1			3
	r		1																1
大腿骨	ℓ				1														1
脛骨	ℓ		1																1
腓骨	r									1									1
距骨	ℓ		1	1						1						1			4
	r		1				1		1										3
踵骨	ℓ							2		1		1							4
第2中足骨	ℓ		1							1									2
基節骨								1		2									3
中節骨										1									1
末節骨								1											1
環椎										1									1
軸椎										1						1			2
頸椎			1																1
腰椎											1								1
仙骨																1			1

表11表　イノシシ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表

（歯式中Ｉは門歯，Ｃは犬歯，Ｐは小臼歯，Ｍは大臼歯を示す。またカッコを付したものは歯が脱落していることを示し，～はその範囲を示す。×は未萠出を示す。第13・15・16表も同じ。）

上・下	時期	資料番号	歯式 r	歯式 ℓ
			M_3 M_2 M_1 P_4 P_3 P_2 P_1 C I_3 I_2 I_1	I_1 I_2 I_3 C P_1 P_2 P_3 P_4 M_1 M_2 M_3
上顎骨	後期中葉	17		M_3
	攪乱層	8	(P_2 ～ C)	
下顎骨	後期前葉	11	(I_2)I_1 M_3 M_2 M_1 P_4 P_3	(I_1 I_2)
		12	× M_2 M_1	
	後期中葉	17	(C ～ I_2)I_1 M_3 M_2 M_1 P_4 P_3(P_2)	I_1 I_2 (I_3 C)♂
上顎遊離歯	後期中葉	17		1 ♀
	攪乱層	15	1	
		20	1	
下顎遊離歯	後期前葉	11		1　2（1♂，1♀）
		12	1	1
		18	1	
	後期中葉	17	1	1
	攪乱層	1	1	1♂
		7	1　1	1
		20		1♂
		33		1♂

第12表　シカ部位別数量表

部位 ＼ 時期 / 資料番号		後期前葉						後期中葉			撹乱層											総計
		10	11	12	13	18	19	16	17	31	1	3	4	5	7	9	15	20	21	23	33	
後頭骨																		1				1
側頭骨	r		1						1		1											3
角			1						2			1						3				7
上顎骨	r															1		1				2
下顎骨	ℓ							1								1						2
	r			1																		1
下顎遊離歯									2	2					1							5
肩甲骨	ℓ											1					1					2
上腕骨	ℓ		1						1													2
	r										1							1				2
橈骨	ℓ								2			1		1								4
	r							1				2						1				4
尺骨	ℓ	1																				1
手根骨	ℓ		1						3													4
	r		1																			1
中手骨	r													1				1				2
	?		1																	1		2
寛骨	ℓ								1			1			1			1				4
大腿骨	r							1	1			1										3
脛骨	ℓ						1				1							1				3
	r								1													1
距骨	r								1													1
踵骨	ℓ							1				2						1				4
	r								3						1							4
足根骨	r							1														1
中足骨	ℓ							1														1
	r								2													2
	?		1						1			1			1			1		1		6
中手・中足骨	?								2			1	1									4
基節骨			2					1	2			1										6
中節骨			1					1	1		1				1						1	6
末節骨									1													1
環椎		1						1	1							1						4
軸椎									1		1											2
脛椎									1			1										2
胸椎					1							1										2
腰椎						1									1	1			1			4
仙骨									1							1						2

第13表　シカ上顎骨・下顎骨および遊離歯一覧表

上・下	時期	資料番号 ＼ 歯式	r										ℓ									
			M_3	M_2	M_1	P_3	P_2	P_1	C	I_3	I_2	I_1	I_1	I_2	I_3	C	P_1	P_2	P_3	M_1	M_2	M_3
上顎骨	攪乱層	9			M_1																	
		20		M_2	M_1																	
下顎骨	後期前葉	12	M_3 (M_2)																			
下顎遊離歯	後期中葉	17			1																1	
		31										1	1									
	攪乱層	7																	1			

第14表　小動物部位別数量表

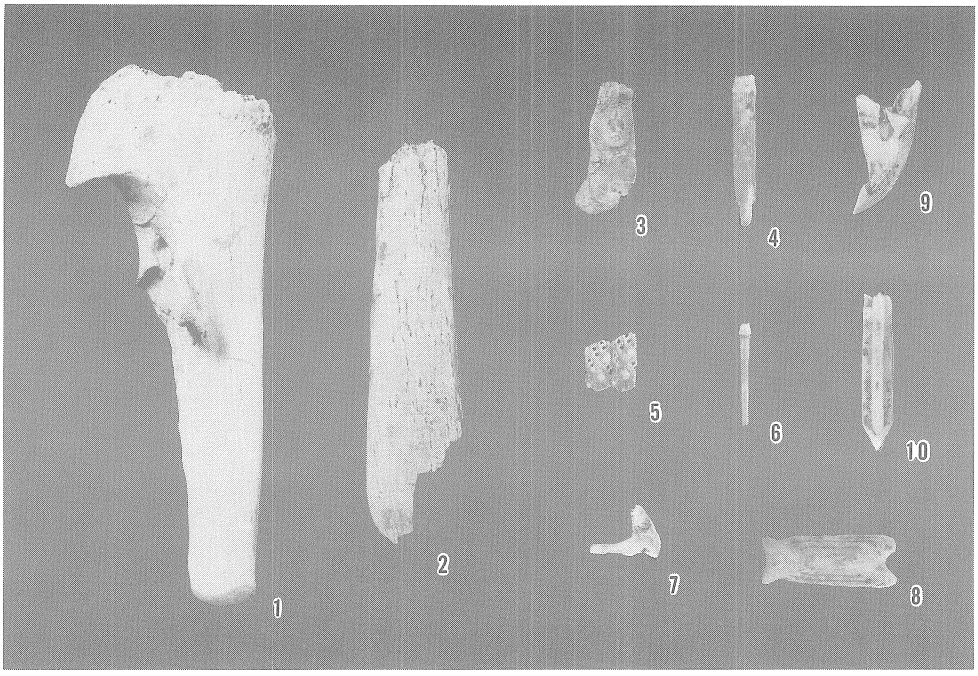
種	部位	資料番号 ＼ 時期	後期前葉			後期中葉	攪乱層						総計
			11	26	32	17	3	6	7	8	23	24	
イヌ	下顎骨	ℓ								1			1
	上腕骨	ℓ					1						1
	第2中手骨	r									1		1
	脛骨	r	1				1	1	1				4
	踵骨	r									1		1
	環椎							1					1
タヌキ	下顎骨	r				2							2
	下顎第2小臼歯	ℓ		1									1
	下顎第1大臼歯	ℓ										1	1
	環椎				1								1
アナグマ	下顎犬歯	ℓ			1								1
	橈骨	ℓ							1				1
	尺骨	ℓ				1			1				2
		r									1		1

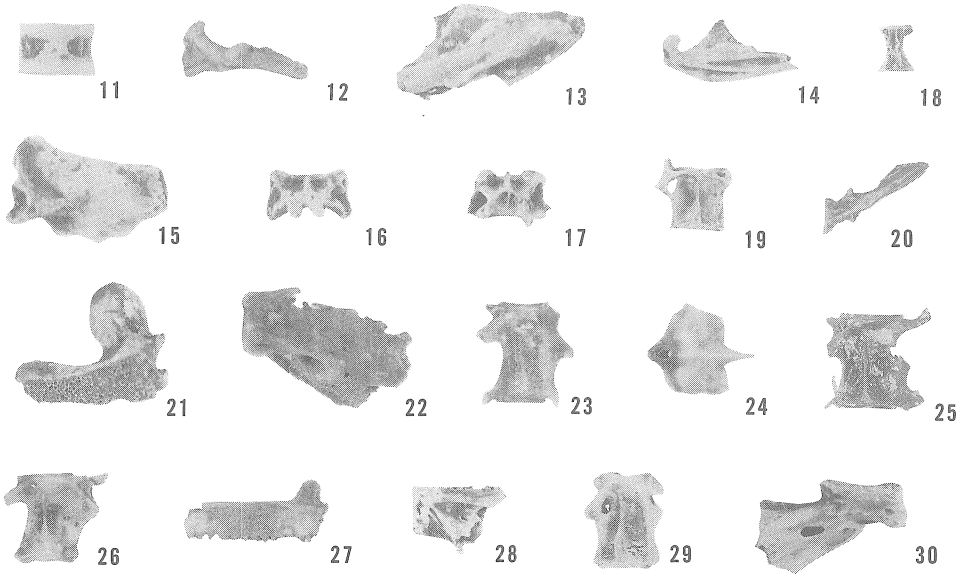
第15表　小動物下顎骨一覧表（第11表註参照。小文字は乳歯を示す）

種　名	時　期	資料番号	左右	部　位
イ　ヌ	攪乱層	8	ℓ	$m_2(m_3)m_4(M_1)$
タヌキ	後期中葉	17	r	$(M_1P_4)\ P_3P_2(P_1C)$
			r	$(P_4 \sim C)$

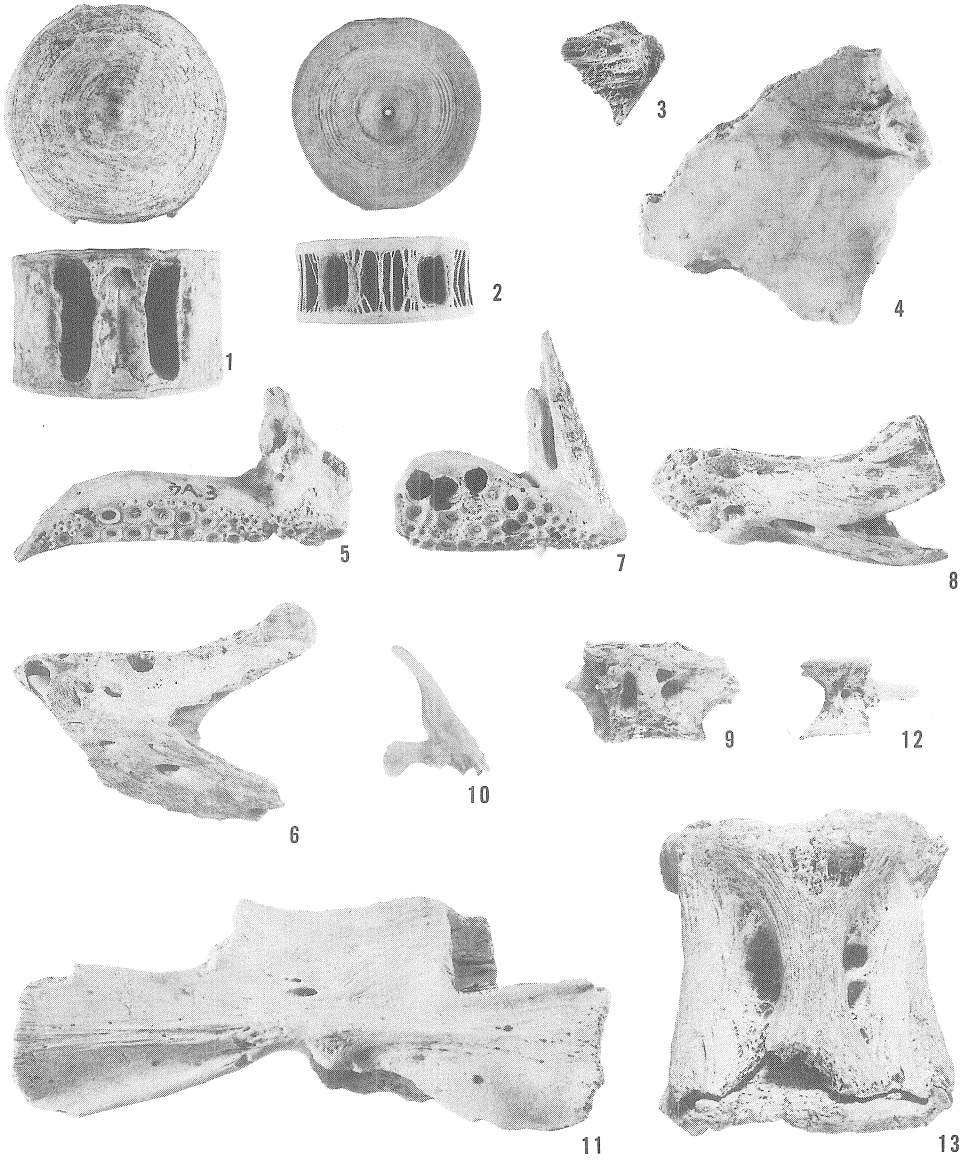
第16表　陸棲哺乳類遺体の検出頻度

種　名	数量	%
イ　ヌ	9	4.31
タヌキ	5	2.39
アナグマ	5	2.39
イノシシ	82	39.23
シ　カ	108	51.67
計	209	99.99



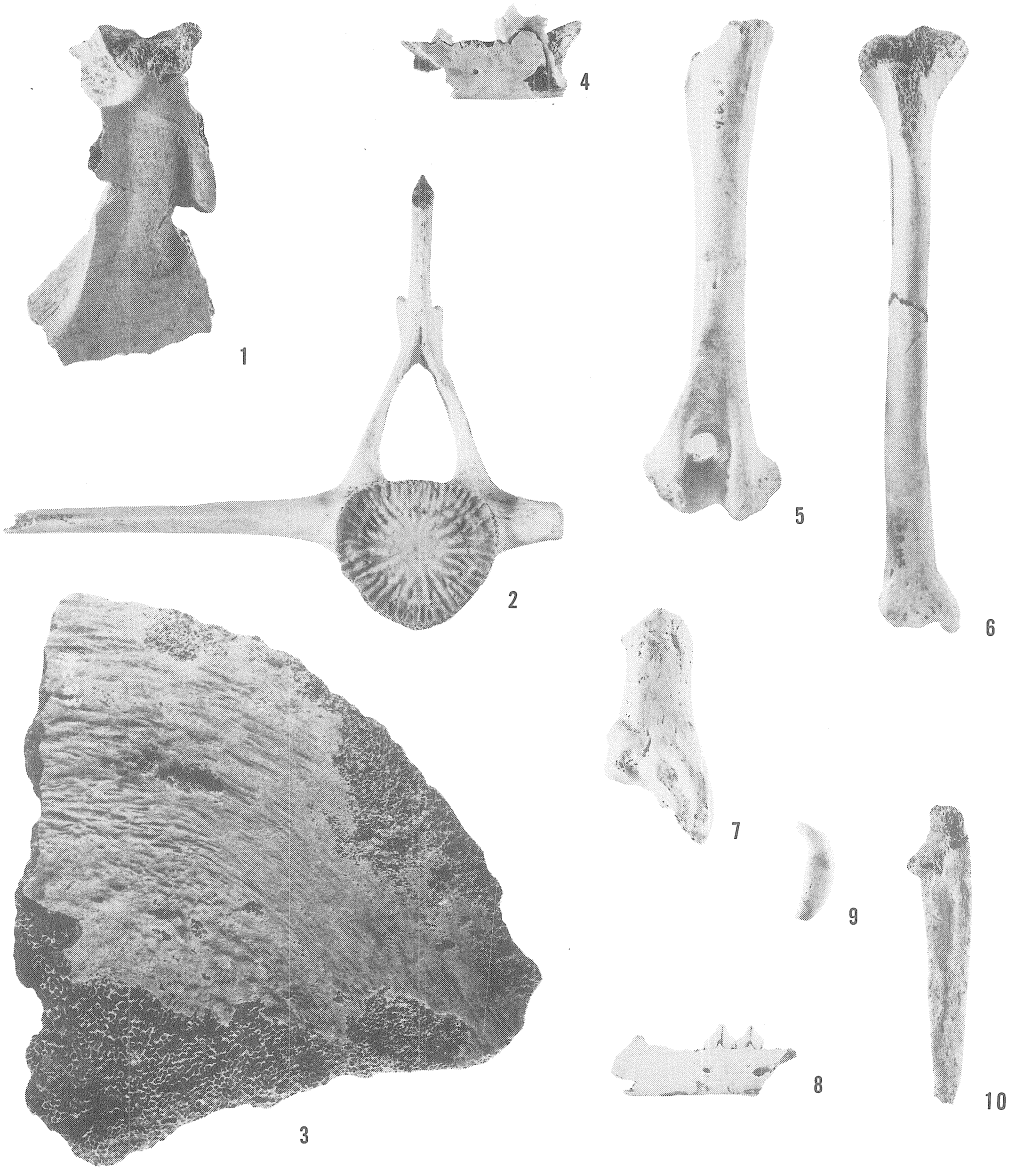


図版１　骨角器および動物遺体１（縮尺，１・２：３分の２，３～30：５倍）
１・２：へら状骨製品，**３**：アカウニ殻板，**４**：同棘，**５**：バフンウニ殻板，**６**：同棘，**７**：ウニ類上生骨１，**８**：同中生骨，**９**：同顎骨ｒ，**10**：同歯，**11**：サメ目脊椎骨，**12**：マイワシ主上顎骨１，**13**：同歯骨ｒ，**14**：同関節骨ｒ，**15**：同主鰓蓋骨ｒ，**16**：同第１脊椎骨，**17**：同第２脊椎骨，**18**：カタクチイワシ脊椎骨，**19**：ニシン科脊椎骨，**20**：同尾部棒状骨，**21**：スズキ前上顎骨１，**22**：マアジ歯骨１，**23**：同脊椎骨，**24**：アジ科楯鱗，**25**：イサキ脊椎骨，**26**：ベラ科脊椎骨，**27**：マサバ前上顎骨１，**28**：同歯骨ｒ，**29**：同脊椎骨，**30**：メバル歯骨ｒ．



図版 2　動物遺体 2（縮尺，10：5倍，他は実大）

1：サメ目脊椎骨，**2**：ネズミザメ科脊椎骨，**3**：ボラ主鰓蓋骨1，**4**：スズキ主鰓蓋骨1，**5**：マダイ前上顎骨1，**6**：同歯骨1，**7**：クロダイ前上顎骨1，**8**：同歯骨1，**9**：タイ科脊椎骨，**10**：ベラ科前上顎骨1，**11**：メカジキ亜目脊椎骨，**12**：ソウダガツオ属脊椎骨，**13**：マグロ属脊椎骨。



図版 3　動物遺体 3（縮尺，３分の２）

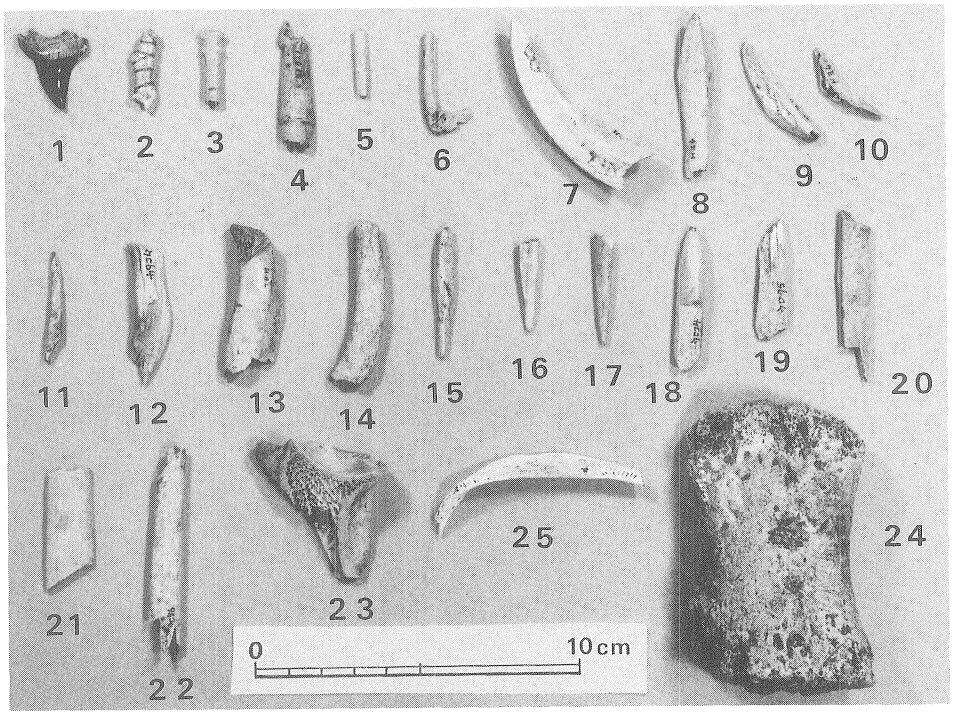
1：イルカ類肩胛骨ｒ，**2**：同脊椎骨，**3**：クジラ類脊椎骨，**4**：イヌ下顎骨１，**5**：同上腕骨１，**6**：同脛骨ｒ，**7**：同踵骨ｒ，**8**：タヌキ下顎骨ｒ，**9**：アナグマ下顎犬歯１，**10**：同尺骨１．

図版４　動物遺体４（縮尺，３分の２）　イノシシ

1：頭頂骨＋後頭骨，**2**・**3**：下顎骨，**4**：上腕骨１，**5**：尺骨ｒ，**6**：第４中手骨１，**7**：寛骨１，**8**：距骨１，**9**：第２中足骨１，**10**：基節骨，**11**：環椎，**12**：腰椎．

図版 5　動物遺体 5（縮尺，３分の２）　シカ

1：下顎骨，2：角，3：肩胛骨１，4：上腕骨１，5：橈骨１，6：尺骨１，7：脛骨１，8：距骨ｒ，9：踵骨ｒ，10：中足骨ｒ，11：基節骨，12：頚椎，13：腰椎，14：仙骨。



図版 6　骨角牙器・貝輪　――番号は第 2 図に一致――

（諫文報第 5 集より転載）

文化振興課

諫早市文化財調査報告書第10集

有　喜　貝　塚

昭和63年６月１日

発行所　諫早市教育委員会
諫早市東小路町１番地
諫早印刷株式会社
諫早市福田町20番26号